

4 DVD 性格チェック

子犬の様子から、それぞれの性格を把握しましょう。どのような性格の子犬なのかを把握することは、譲渡の際のマッチングに非常に役に立ちます。また、性格を踏まえたうえで、より譲渡に適した犬にするための社会化（詳細は12ページ）を適切に行っていきましょう。

日常の観察

給餌や清掃など、日常のケアの中で、子犬がどんな反応を示すのかを注意して観察するようにしましょう。特に気づいた点があれば、個体管理シート等に記入しておくといいでしょう。

性格チェック

ここで紹介する性格チェックは、あくまでもマッチングの参考として性格を把握することを目的としています。以下に紹介する項目を参考に、各施設で統一した性格チェックリストを作成してみましょう。同じ基準で個体ごとにチェックすることで、それぞれの性格を把握しやすくなります。

性格チェックの方法例

1 人が近づく

子犬の飼育スペースに入り、まずは何もせず子犬の様子を観察する



2 体を触る

子犬を誘うようにして呼び寄せ、体を触ってみる



3 抱き上げる

やさしく抱き上げて、体のあちこちを触ってみる



4 見慣れないものに対する反応を見る

カサなど、見慣れないものを置いて、子犬の反応を見る



他の子犬との様子を観察する

複数の子犬たちの様子を観察すると、それぞれの子犬の個性がよく見えてきます。兄弟同士だけではなく、別胎の子犬や、月齢が異なる子犬など、組み合わせを変えてみてどんな反応を見せるか、よく観察しましょう。



性格チェックにおける子犬の行動パターン

性格チェック①～④の反応で、よく見られる行動を表にしました。わかりやすいように大きく、「興奮レベルが高い子犬」「ノーマルな子犬」「シャイな子犬」の3つに分類してあります。

チェック項目	「興奮レベルが高い子犬」 によく見られる行動	「ノーマルな子犬」 によく見られる行動	「シャイな子犬」 によく見られる行動
① 人が近づく	<ul style="list-style-type: none"> ● 走り寄る ● 激しく飛びつく ● ずっとしっぽを振っている ● 甘噛みが激しい ● おしっこを漏らす など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 寄ってくる ● やさしくしっぽを振る ● とびつく ● 甘噛みをする ● 近づいては離れ、また近づく など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 逃げる ● かたまる ● 震える ● 吠える（警戒吠え） ● フケがでる など
② 体を触る	<ul style="list-style-type: none"> ● バタバタして触らせない ● 走り回る ● 遊びに誘う ● 触ると体が柔らかい ● 甘噛みが激しい など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 触らせる ● 少々の甘噛み ● 少々の飛びつき ● 一瞬かたまるが、すぐに回復する ● 触る場所によっていやがる など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 逃げる ● 触らせるが、体が硬い ● しっぽが下がる ● しっぽを巻きこむ ● 震える ● 手を離すとすぐに離れる など
③ 抱き上げる	<ul style="list-style-type: none"> ● あばれる ● 甘噛みが激しい ● 抱き方を変えても落ち着かない ● 飛び降りようとする ● 暴れる・落ち着く、を繰り返す ● 鼻を鳴らす など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人しく抱かれる ● 最初はバタバタするが、すぐに落ち着く ● 抱き方によって落ち着く ● ゆっくりしっぽを振る ● 人の手や顔をなめる など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体をかたくしている ● 抱いた時に、足が突っ張る ● しっぽを巻きこむ ● 震える ● 足の裏が濡れてくる ● あえぐ など
④ 見慣れないものに対する反応を見る	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的に近づく ● おもちゃにして遊ぶ ● 破壊しようとする ● 興奮して走り回る ● 遠巻きにして激しく吠える など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 慎重に近づく ● すぐに近づく ● あまり気にしない ● 少し逃げ腰になるが、徐々に慣れる ● ものも気にするが、人のことも気にする など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 逃げる ● ものから離れてかたまる ● 顔をそむける ● 震える ● 吠える（警戒吠え） など



ここに記したのは、よく見られる行動の一部です。このほかにも、子犬によってさまざまな行動が見られます。ひとつの行動だけで性格を判定するのではなく、子犬全体の動きや表情をよく観察し、日常の様子や他のスタッフの意見を参考に、総合的に判断してください。多くの子犬を観察し、性格チェックの経験を積むことで、より的確な性格判定とマッチングができるようになるでしょう。

性格判定

性格チェック①～④の反応や日常業務の中で見られる様子、他の犬との遊びなどを総合して、性格を把握します。子犬の場合は、大きく「興奮レベルが高い」「ノーマル」「シャイ」の3つに分類するとわかりやすいでしょう。

興奮レベルが高い子犬とは

新しい環境や人に対して常に興味がある様子を示します。人が近づくと、一番に駆け付け、他の犬を押しのけ、飛びつき、尾を振り、時には走り回り、吠える等、アピールしてきます。体に触れると多くの場合、興奮から甘噛みをします。抱いたりして、体を拘束すると、身をよじって逃げようとするかもしれません。



いつまでたってもエネルギー的に動き回り、落ち着くことはまれです。他の犬に対しては、みずから積極的に遊びに誘い、相手によっては嫌がっても追いかけまわすでしょう。おもちゃなどにくわえて激しく振りまわすような時には、興奮を示すサインとして唸り声が出ることもありますが、この唸り声は攻撃ではなく、あくまで興奮のサインです。

ノーマルな子犬とは

子犬にしては、比較的落ち着いています。新しい環境に連れて行かれるとしばらくはあたりの匂いをかいだ周囲を確認しますが、安心できるとわかると尾をあげ、動き回ったり、休んだりします。人が近づくと、興味を示しますが、過剰に興奮することはまれです。尾を振り、手をなめ、飛びつき、少々甘噛みもあるでしょう。ただ、抱かれたり、拘束されると、動きはおとなしくなり、じっと受け入れます。時には自らおなかを出して、なでて欲しいとアピールすることもあるでしょう。ほかの犬と遊ぶときも、追いかける役、追われる役の両方をバランスよくこなします。何に対しても比較的落ち着いて接することができるタイプです。



シャイな子犬とは

新しい環境や人に対して、怖がり、慣れるまでに時間がかかります。ケージや犬舎の中では、隅や奥でうずくまり、尾を下げながら、あたりの様子をうかがいます。人が近づくと、奥まで逃げたり、かたくなったりします。触られたり、抱かれたり、拘束しようしたりすると、体をかたくする、震えるなど、緊張していることを全身でアピールするでしょう。ただ、何日か同じ環境や同じスタッフが世話をする中で徐々に慣れます。人に近づき、穏やかに尾を振り、そっと受け入れる様子を示します。他の犬に対しても、はじめは怖がる様子を見せますが、相手がよほどしつこくない限り、しばらくすれば挨拶や遊びの行動が見えてくるでしょう。



！性格チェックを行う時の注意

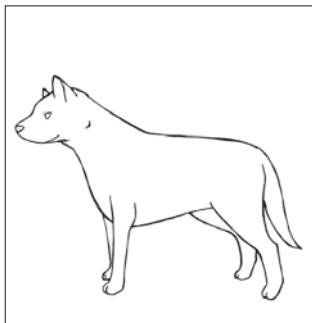
飼養期間中に何度か行うと、子犬の反応が変化することにも気づくでしょう。成長期にある子犬の性格はまだ形成途中なので、収容されている間にどのような環境でどのようにケアをされたか、人にどのように扱われたかで、反応は大きく変化します。収容されてすぐのチェックではとてもシャイだった子犬や、あるいは興奮気味だった子犬も、日数がたつにつれて落ち着いてくることがよくあります。日ごろから子犬の様子をよく観察して、マッチングの参考にしてください。



犬のボディランゲージ

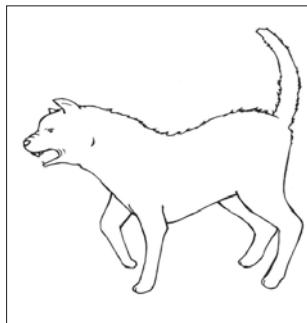
犬は、目・耳・口・手足・しっぽの微妙な動きや、体の姿勢、相手との距離の取り方、動き方などで、気分や意図を表現します。これをボディランゲージと言います。ボディランゲージを読みとることができれば、子犬の性格を見るのに役立ちます。以下は、代表的な犬のボディランゲージです。観察する時の参考にしてください。

1 リラックス



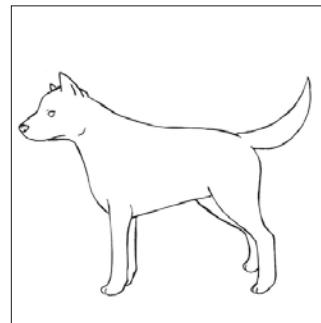
全身に力が入っていない／口元は緩んでいる／尾は自然な状態で下がっている／立ち耳の犬の耳は前傾かず立っている

2 攻撃



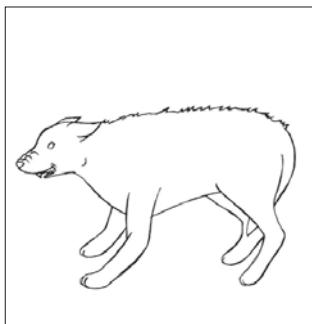
体を前に傾ける／背中の毛が逆立つ／耳を前に倒す／鼻の上にシワを寄せる／唇をめぐりあげ、歯を見せる／尾を立てる

3 警戒



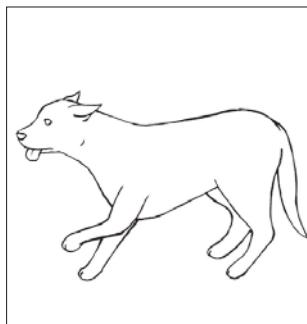
前のめりに立つ／背中の毛が逆立つ

4 防御



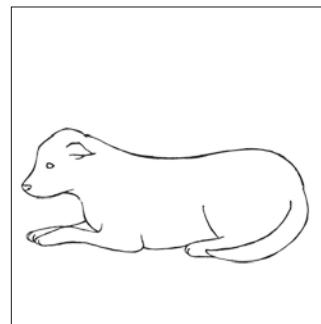
耳を後ろに倒す／瞳孔が広がる／鼻の上に皺を寄せる／口角が広がる／くくる／背中の毛が逆立つ／姿勢を低くする／尾を足の内側に巻き込む

5 服従（能動的）



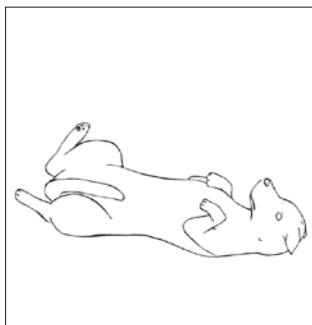
耳を後ろに倒す／舌をペロペロ出す／口角が下がる／姿勢を低くする／尾を下げる／なだめるようない行動をとる

6 服従（受動的）



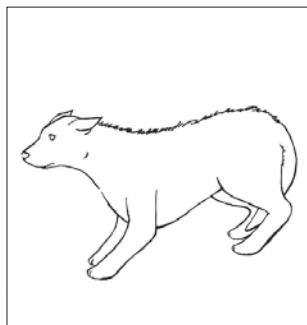
体を低く、小さくする／相手からのアプローチを避ける／不安で自信がない様子

7 服従（受動的）



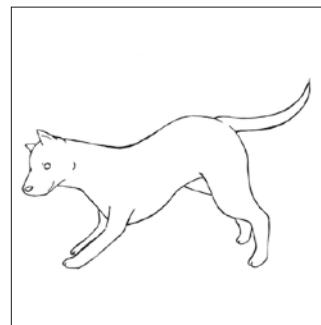
おなかを見せる／耳を後ろに倒す／視線をはずす／尾を足の内側に巻きこむ

8 「攻撃」か「逃走」かで迷っている



尾をさげるか、足の内側に巻き込む／体を低くする／背中の毛が逆立つ

9 遊びに誘う



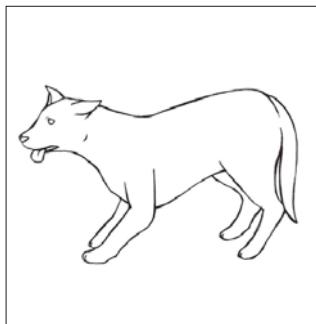
体を低くする／前足を伸ばす／尾を大きく振る

10 甘えている



体をくねらせる／尾を振る／体をすりよせる／口の周りをなめる

11 緊張・ストレス



体を低くする／尾を下げる／息使いが荒くなる／人や動物だけではなく、環境にストレスを感じることもある

Column カーミングシグナル

犬が不安や緊張を感じた時に、自分や周囲（犬はもちろん人に対しても）を落ち着かせて、安心な状態を保つために行う行動を「カーミングシグナル」と言い、多くの種類があります。このシグナルを理解すると、犬の状態がよりわかるので、犬に過剰なストレスをかけることなく対応できるでしょう。

【代表的なもの】

床や地面の匂いをかぐ／鼻をなめる／体を振る／カーブを描いて歩く／顔をそむける／体を伸ばす／あくびをする／体をそむける

